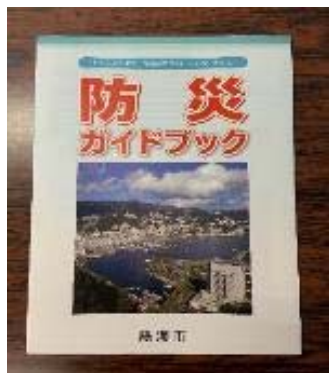


令和2年度実施

○住民の防災意識向上のための取組

防災ガイドブックの配布により防災意識向上を図る

ハザードマップ等、内容の改訂を行い市内全戸に配布を行った。



○社会経済被害の最小化のための取組

河川パトロールへの参加

浸水被害軽減に向け、土のう備蓄箇所を継続設置

浸水被害軽減に向け、河川等の改修を実施

※防災出前講座や、土のう作成、積上げ訓練については、新型コロナウイルス感染症予防のため未実施となった。

令和3年度予定

○住民の防災意識向上のための取組

防災出前講座の継続

- ・ 災害についての知識、意識の向上
- ・ 警報避難情報の周知及び自主避難の促進



○社会経済被害の最小化のための取組

河川パトロールへの参加 (継続)

浸水被害軽減に向け、土のう備蓄箇所を継続設置

土のう作成、積上げ訓練の実施

浸水被害軽減に向け、河川等の改修を実施

## 令和2年度・令和3年度の主な取組(伊東市)

## 令和2年度実施

## ○要配慮者が確実に避難するための取組

●洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設を地域防災計画に記載

・H31.3月に見直された伊東大川浸水想定区域に含まれる要配慮者利用施設を伊東市地域防災計画に記載し、防災会議にて承認

●対象施設に説明会を実施し計画策定を呼びかけ

・対象の14施設に対し避難確保計画策定の説明会を実施、対象施設全てが令和2年度中に計画の提出を完了した。

## ○住民の防災意識向上のための取組

●住民向けの防災啓発事業の実施

・防災フェアにて、台風に関する展示により情報周知(本年度は静岡県地震防災センターの協力を受け、借受による展示を実施)

・風水害に関する啓発紙を配布及びポスターの掲示  
・防災講座の実施(小中学校3回、その他6回)



## ○社会経済被害の最小化のための取組

●河川パトロールへの参加●土のうを作成・備蓄

## 令和3年度予定

## ○要配慮者が確実に避難するための取組

●浸水想定区域内の要配慮者利用施設

- ・策定した避難確保計画を最新に保つよう呼びかけ
- ・計画に基づく訓練実施の呼びかけ、補助

## ○住民の防災意識向上のための取組

●住民向けの防災啓発事業の実施

- ・(継続)風水害に関する記事を広報誌に掲載
- ・(継続)防災フェアにて、災害に関する情報の展示
- ・(継続)啓発紙の配布、ポスター掲示
- ・(継続)防災講話の実施

## ○社会経済被害の最小化のための取組

●(継続)河川パトロールへの参加●(継続)水防訓練の実施●(継続)土のうの作成・備蓄

## 令和2年度・令和3年度の主な取組（静岡県危機対策課）

## 令和2年度実施

## ○マイ・タイムラインの作成推進

豪雨時における住民避難の実効性向上を図るため、住民自ら避難行動を確認し、逃げ遅れを防ぐよう、避難行動判定フローを周知し、避難行動の確認を啓発。

また、市町職員へのマイタイムライン研修会の実施し、ワークショップ開催の支援を行った。

## 避難の理解力向上

○「避難行動判定フロー」による避難行動確認を周知・啓発※

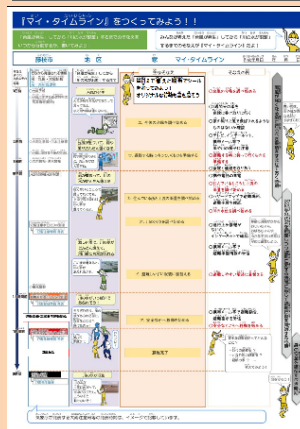
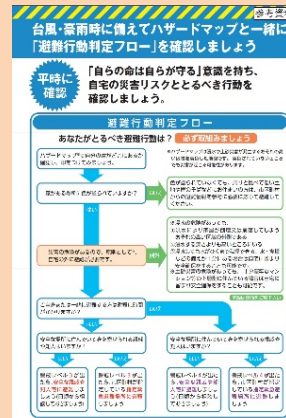
- ※新型コロナ感染拡大防止を念頭に、適切な避難行動を求める。
- ・感染を懸念した逃げ遅れの防止
  - ・避難所への集中抑制

作成した手引書を活用し、河川管理者及び防災担当者（国・県）は防災リーダーを育成

市町職員・地域の防災リーダー（国・県による支援）

○市町職員や地域の防災リーダーが主体となり、手引書を参考に、住民がマイ・タイムラインを作成するためのワークショップ等を実施。

【住民】  
マイ・タイムラインの作成により自分の避難行動を習得し、逃げ遅れを防止



← 避難行動判定フロー（内閣府）

← マイタイムライン手引書

## 令和3年度予定

## ○住民避難の実効性向上への取組み

豪雨時における住民避難の実効性向上を図るため、住民自ら避難行動を確認し、逃げ遅れを防ぐよう下記について実施。

## ☆マイ・タイムラインの作成促進（継続）

- ・マイ・タイムラインの作成促進を図るため、引き続き、市町職員や地域の防災リーダーへの研修会を実施。
- ・コロナ禍に対応した、各家庭で作成できるマイ・タイムラインの検討。
- ・WS開催にあたり、助言や資料提供などの支援を実施。

## ☆防災アプリを活用した周知啓発（継続）

- ・防災アプリによるハザードマップの確認、防災情報や避難所情報の取得について、市町職員、自主防災組織、学校、住民などへ説明会を実施。



## 令和2年度実施

### ○逃げ遅れゼロのための取組

#### 市町風水害危機管理演習の実施

管内市町の防災担当職員を対象に、防災情報の取扱いや避難勧告等の発令判断など防災能力のスキルアップを目的に、演習を実施した。

＜演習＞(令和2年9月11日)

参加者:13市町25名

マイタイムラインの策定促進と、地域における風水害対策の強化を図ることを目的に、当局にて作成した「風水害対応イメージTEN」を活用し、風水害の時系列を意識した演習を実施した。



### ○住民の防災意識向上のための取組

#### 地域住民に対する意識啓発と防災指導の実施

＜研修＞(令和2年8月7日) 参加者38名

地域防災指導員の能力向上を図り、住民一人一人の防災意識向上を図るため、地域防災指導員能力向上研修を実施し、台風シーズンの到来を前に風水害への備えと対応力の強化を図った。

#### 風水害に関する防災教育の推進

管内の高等学校を対象に防災出前講座を実施しており、令和2年度については、3月末時点で63回(熱海土木管内で7回)の出前講座を実施した。うち30回はハザードマップの見方や市町が発令する避難情報の意味の解説など風水害に関する内容を含めた形で講座を実施している。



## 令和3年度予定

### ○逃げ遅れゼロのための取組

#### 市町風水害危機管理演習の実施

令和3年度については、これまでの風水害対応の反省点を踏まえ、防災情報の取扱いや避難勧告等の発令判断、復旧期の対応など、各関係機関それぞれが担う役割の理解促進と防災能力のスキルアップ、管内市町の能力平準化を目的に実践に則した内容

で実施していく。(令和3年6月8日に市町職員向け風水害対応イメージTEN研修を開催)

また、出水期後には管内市町との意見交換会を実施し、住民の避難行動促進に向けた情報発信の方法等の情報共有を図っていく。



### ○住民の防災意識向上のための取組

#### 地域住民に対する意識啓発と防災指導の実施

住民一人一人の防災意識の向上と避難行動の迅速化を図るためにも、各種研修会をとおして、一番身近な災害である風水害への備えとその対応について継続的な啓発、指導を実施していく。



【参考】住民研修会の実施例

#### 風水害に関する防災教育の推進

地震・津波を中心に進めてきた「防災出前講座」において、近年、全国で多発している風水害に関する内容についても、要望に応じて河川管理者など関係機関と連携しながら実施していく。(令和3年5月末現在81回を予定)





### 令和2年度実績

#### ○逃げ遅れゼロのための取組

- 社会福祉法人等の指導監査
  - ・社会福祉法等に基づく指導監査において、防災管理体制や防災訓練の実施状況をチェックリストを活用し、書面及び電話で確認、指導
- 高齢者福祉施設の災害対応マニュアルの改訂
  - ・「高齢者福祉施設における災害対応マニュアル」について、市町担当課・連絡先等の修正を反映
  - ・県が開催する「市町介護保険事業者指導担当者研修会」等で、施設における非常災害対策に重点をおき、本マニュアルを活用
- WEBを活用した社会福祉施設等職員防災研修会
  - ・施設職員の防災意識の向上や知識の習得を図り、施設の防災対策力を高めることを目的とし、例年行っている施設職員向けの研修を動画で配信

【研修内容】  
要配慮者利用施設の避難訓練についての説明、地震防災アドバイザーによる講演 等



- 避難行動要支援者の避難支援対策等に係る意見交換会
  - ・危機管理部、交通基盤部と連携して、市町防災、福祉担当職員に対して意見交換会を実施

### 令和3年度予定

#### ○逃げ遅れゼロのための取組

- 社会福祉法人等の指導監査（継続）
  - ・社会福祉法等に基づく指導監査において、防災管理体制や防災訓練の実施状況をチェックリストを活用し、書面及び電話で確認、指導
- 高齢者福祉施設の災害対応マニュアルの改訂（継続）
  - ・「高齢者福祉施設における災害対応マニュアル」について、市町担当課・連絡先等の修正や、制度改正を反映する。
  - ・県が開催する「市町介護保険事業者指導担当者研修会」等で、施設における非常災害対策に重点をおき、本マニュアルを活用する。
- 社会福祉施設等職員防災研修会（継続）
  - ・施設職員の防災意識の向上や知識の習得を図り、施設の防災対策力を高めることを目的とし、施設職員向けの研修を実施する。

【研修内容】  
要配慮者利用施設の避難訓練についての説明、地震防災アドバイザーによる講演 等
- 避難行動要支援者の避難支援対策等に係る意見交換会（継続）
  - ・危機管理部、交通基盤部と連携して、市町防災、福祉担当職員に対して意見交換会を実施する。
- 浸水区域内要配慮者利用施設の支援（新規）
  - ・洪水浸水想定区域内に立地する社会福祉施設が行う避難確保計画の策定や浸水対策資材等の整備を支援する。

## 令和2年度・令和3年度の主な取組（静岡県河川砂防局）

## 令和2年度実施

## ○逃げ遅れゼロのための取組

- 水害リスク情報等の共有に向けた取組
  - ・マイ・タイムライン研修会の開催（2月4日実施：79名出席）  
内容：洪水ハザードマップを活用したマイ・タイムライン作成
  - ・氾濫推定図（小規模河川において洪水浸水が想定される範囲を示す図面）の検討（県内459河川：熱海伊東地域は19河川）
  - ・洪水浸水想定区域図の分かりやすい説明資料をホームページに掲載
  - ・高潮浸水想定区域図の作成（2市）
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、水害リスクや避難方法等をテーマとした動画の配信（全7シリーズ：6月17日運用開始）
- 避難行動を促す取組
  - ・気象庁の危険度分布を「サイポスレーダー」に搭載し、県内河川の水害リスクの高まりとして点情報（水位データ）に加え線情報も表示（R3.4月運用開始、対象201河川⇒413河川）
  - ・土砂災害警戒情報補足情報システムの多言語化（英語、ポルトガル語）、スマートフォン版の開設（9月30日運用開始）
  - ・土砂災害警戒区域の電柱広告による住民周知の開始（11月11日協定締結）

## ○ハード対策の取組

【県内全域】

- 河川（河道掘削、樹木伐採等）
  - ・県内183河川：熱海伊東地域は5河川
- 砂防（土砂災害防止施設の整備）
  - ・県内31箇所：熱海伊東地域は2箇所

## 令和3年度予定

## ○逃げ遅れゼロのための取組

- 水害リスク情報等の共有に向けた取組
  - ・マイ・タイムライン研修会を継続実施
  - ・水害リスクや避難方法をテーマとした動画配信の継続実施
  - ・土砂災害警戒区域の指定対象箇所の確認
  - ・市町福祉担当者や学校関係者に、要配慮者利用施設における避難確保計画作成に向けた取り組みについて説明
  - ・氾濫推定図（小規模河川において洪水浸水が想定される範囲を示す図面）の作成（県内461河川：熱海伊東地域は19河川）
- 避難行動を促す取組
  - ・土砂災害警戒区域の看板、標識による住民周知の開始
  - ・モデル地区における地区防災計画（土砂災害版）の作成
  - ・土砂災害警戒情報補足情報システムの多言語化（やさしい日本語ほか3言語）

## ○ハード対策の取組

【県内全域】5ヵ年加速化対策

- 河川（河道掘削、樹木伐採等） 県内289河川：熱海伊東地域は6河川
- 砂防（土砂災害防止施設の整備） 県内55箇所：熱海伊東地域は1箇所

【令和3年度末までの目標】

- ※要配慮利用施設における避難確保計画作成と訓練実施（100%）
  - 【水害】全県：85.6%（R2.10.31時点：全国2位）
  - 【土砂】全県：74.4%（R2.12.31時点）
- ※市町における洪水ハザードマップ作成（全30市町）  
熱海伊東地域は完了済
- ※市町における水害タイムライン作成（全30市町）  
熱海伊東地域は完了済

## 令和2年度実施

### ○「社会機能の早期回復」を達成するための取組

#### ●河川における機能の確保

河川内の堆積土砂撤去や樹木伐採等による流下能力の保全を実施

- ・(二)伊東大川 県土強靱化対策事業
- ・(二)千歳川 県土強靱化対策事業

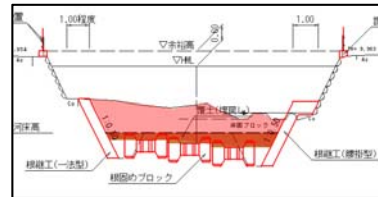


#### ●河川整備計画に基づく治水対策の着実な実施

河道拡幅などの河川改修を行い河川流下能力を拡大する。

- ・(二)烏川 災害等予防保全事業  
(根継・掘削 L≒50m)

流下能力を **43m<sup>3</sup>** → **100m<sup>3</sup>** へ向上



#### ●ダム等の洪水調節機能の向上

奥野ダムの事前放流実施に向けた検討を開始  
令和3年度の運用開始を目標

## 令和3年度予定

### ○「社会機能の早期回復」を達成するための取組

#### ●河川における機能の確保

河川内の堆積土砂撤去や樹木伐採等による流下能力の保全を実施

- ・(二)伊東大川 国土強靱化総合流域防災事業

#### ●河川整備計画に基づく治水対策の着実な実施

河道拡幅などの河川改修を行い河川流下能力を拡大する。

- ・(二)烏川 国土強靱化総合流域防災事業



#### ●ダム等の洪水調節機能の向上

奥野ダムの事前放流の実施効果など検証する。

### ○「逃げ遅れゼロ」を達成するための取組

#### ●避難行動を促す取組

・引き続き地域における  
出前講座等へ講師を派遣し  
防災教育を推進する。

・主に土砂災害の仕組みや  
避難行動について、クイズ等  
も加えながら実施。



R1.12.16 熱海高校での防災出前講座の様子



# 令和2年度・令和3年度の主な取組（静岡地方気象台）

## 令和2年度実施

### 「危険度分布」で本川の増水に起因する内水氾濫の表示を改善

「危険度分布」において「本川の増水に起因する内水氾濫（湛水型の内水氾濫）の危険度」も確認できるよう、本川流路の周辺にハッチをかけて危険度を表示するように改善した。

#### 改善案（イメージ）



本川の増水に起因する内水氾濫（湛水型の内水氾濫）の危険度  
 河川の増水によって周辺の支川・下水道からの排水ができなくなることで発生する内水氾濫による洪水被害のおそれがあると認められるときに発表。

- 警戒【警戒レベル3相当】
- 注意【警戒レベル2相当】

ボタンON時に凡例を表示

平成30年7月豪雨の被害状況  
 ○由良川沿川の舞鶴市、福知山市において浸水被害が発生。（※床上浸水 合計約170戸、



## 令和3年度予定

### 1日先の予想「危険度分布」等の提供開始を検討

台風による大雨など可能な現象について、より長時間のリードタイムを確保した警戒の呼びかけを行うため、1日先までの雨量予測を用いた「危険度分布」の提供開始を目指す。予測精度を検証した上で、精度も考慮した呼びかけ方や表示方法の具体について検討していく。

